

臨 牀

岡山縣立高松農學校寄宿舎ニ 發生セル猩紅熱ノ臨牀的觀察 特ニ其ノ血液像ニ就テ

岡山醫科大學柿沼内科教室

副手 醫學士 村 山 高
副手 醫學士 福 田 豊
副手 正 木 忠 生

昭和3年2月岡山縣立高松農學校寄宿舎ニ十數名ノ猩紅熱患者發生シ、余等ハ同校吉田校長、校醫小西醫學士ノ御好意ニヨリテ、全經過ニ互リテソノ症狀ヲ觀察シ得タルヲ以テ、今茲ニソノ當時ノ所見就中、血液所見ニ就キテ略述シ、以テ兩氏ノ御好意ニ謝意ヲ表シ且又在來ノ文獻ニ附加スル所アラント欲ス。

蓋シ本病ノ如キ尙ホ本態不明ナル疾患ニ關シソノ系統的觀察ヲナスニ當リテ、ソノ血液所見ハ特ニ重視セラルベク、又當該疾患ノ本態闡明ニ資スルコトアルノミナラズ、ソノ精細ナル形態學的檢査ハ疾病ノ診斷ニ、治療ニ、將又、豫後判定ニ對シ有益ナル材料ヲ供給スルコトアルベキハ明カナリ。

(1) 症 狀 概 略

余等ノ觀察セル患者ハ16歳乃至20歳ノ總計18名ノ男生徒ニシテ、ソノ病源傳播徑路ニ就キテハ流行時ニ於ケルト同様不明ナリ。唯初發患者ト思ハルルモノハ昭和3年1月23日縣下金光町ニ旅行、歸舎シ、幾許ノ發熱ノナメ感冒ナラント臥床シ、同25日ニハ授業ヲ受ケシモノノ後再ビ多少ノ發熱竝ニ倦怠ノ感ヲメ臥シ、同30日ニ診察ヲ受ケシニ顔面發赤、發熱 38°C ニ及ビ翌31日ニハ更ニ發熱 39°C ニ達シ、舌ニ變化少カリシモ、發赤全身ニ擴マリ以テ初メテ本病ノ發生ヲ疑ハシメシモノニシテ、翌2月1日全寄宿舎生ニ互リテ健康診斷ヲナセルニ、既ニ本病若クハソノ注意患者ハ總計17名ヲ算シタルナリト云フ。

斯クシテ最初患者ト思ハレシモノガ果シテ初發ナリヤ否ヤハ決定シガタク、又ソノ旅行先金光町ニ於テ何等本病ノ流行若クハ發生ナク、又當時高松町附近ニ於テハ唯僅ニ隣村ニ幼齡ノ少女ニテ何等恐ラクコノ流行ニ關係ナク罹患シ居リシモノアリシノミニテソノ傳染徑路ニ就テハ依然トシテ不明ノ裡ニアリ。

然レドモ寄宿舎ニ於テ同室ノモノ必ズシモ罹患セザリシハ明カニ、本病罹患性素因ガ麻疹時ニ於ケルガ如ク普遍的ナラザルヲ語ルモノニシテ、又他方ニ於テハ本病發生ガ管ニ幼少人ニ

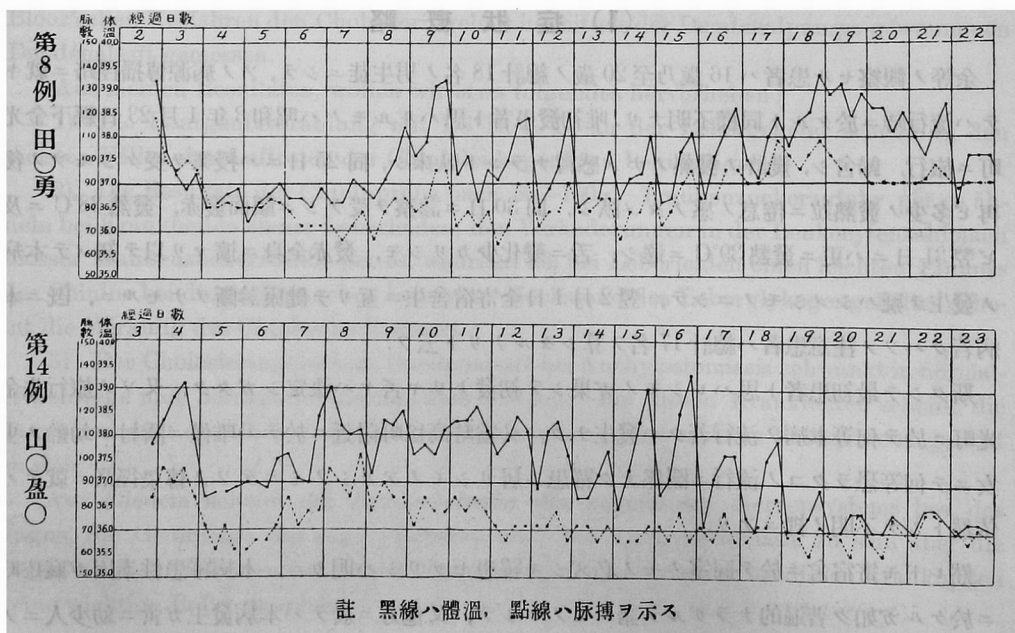
ミ限ラザルヲモ知り得ベシ。(「ライブチツヒ」市ノ統計参照).

潜伏期ニ就テ何等特記スル所ヲ知ラズ. 唯前徵期ニ於テハ戰慄ヲ以テ發熱セル例ナク, 多クハ輕度ノ惡寒ヲ以テ突然發病シソノ際嘔吐等ヲ伴ヘルモノナリ僅ニ1例ニ於テ發病ト同時ニ下痢ヲ伴ヒシノミ. 是レ河崎氏ノ報告トヨク一致スル處ニシテ, 殊ニ嘔吐ハ小兒以外ニ於テハ必發症狀ナラザルハ周知ノ如シ. 咽頭及ビ頸部ニ於ケル疼痛ハ一般ニ輕度ニシテ咽頭粘膜, 軟口蓋, 懸壜垂竝ニ扁桃腺等ニ於ケル發赤腫脹ヲ認ムル程度ノモノ6例, 典型的ノ所謂猩紅熱「アンギナ」ヲ認メシモノ又僅ニ2例ニ過ギズ.

蓋シ本流行ト殆ト同時ニ而モ全ク無關係ニ吾ガ教室ニ收容セラレシ1例ニ於テハ, 咽頭及ビ頸部痛竝ニソノ「アンギナ」症狀ノタメ數日間不眠苦痛ヲ訴ヘシヲ見レド本流行ニ於テハ一般ニ咽喉ニ於ケル症狀ハ輕度ナリシモノノ如シ.

舌ノ變化. 本流行ニ於テ僅2例ヲ除キタル他ノ16例ニ於テハ舌ハ灰白ノ厚苔ヲ帶ビ舌乳嚢ハ特ニソノ邊緣部ニ於テ腫脹シ所謂覆盆子舌ヲ呈シタリ. 又固有ノ發疹ヲ呈セザリシ3例ヲ除キ他ノ15例ニ於テハ總テソノ度ニ多少ノ差ハアレド發疹ヲ認メ, 先ヅ頸部及ビ上胸部ヨリ軀幹四肢ニ現レタルモノ多ク, 通例四肢ノ屈側ニ著明ナリトセラルルモ却テ伸側ニ認メ得タルモノ多シ. 同時ニ又口周邊蒼白症モ大多數ニ於テ之ヲ認メ得タリ.

又本流行ニ於ケル熱型ハ普通一般ノソレノ如ク第9乃至第11病日マデニ階段的ニ下熱シ常溫ニ復セルモノ6例ニ過ギズシテ他ノ多クハ何等カノ合併症ヲ伴ヘル場合ハ勿論ナルモ, 何等斯カル症狀ヲ思ハサザリシ場合ニ於テモ尙ホ所謂敗血性熱型ヲ呈セルモノ多カリシハ注目ヲ惹ケリ. 即チソノ1-2ノ例ヲ示セバ次ノ如シ.



脾腫ハ本病ニ於テハ比較的稀有ナリトセラルルモ本流行ニ於テハ、全經過ニ互リテ多少ナリトモ脾腫トシテ認メ得シモノ6例アリタリ。

又恢復期ニ入リテ諸種ノ症狀漸次消散スルハ一般ニ見ラルルト同様ナリシモ唯本流行ニ於テハ、舌乳嘴ノ腫脹ハ尙ホ依然トシテ永續シ多數ノ例ニ於テ恢復期第2週マデ之ヲ認メ得タリ。皮膚ノ落屑ハ恢復期第1週ニ於テ始マレルモノ多ク又發疹ノ最モ早く發現セル部位ヨリ起レルコト、又一般ニ信ゼラルルガ如クニシテ又粗糙狀ヲ呈シ後四肢特ニ手指、足趾等ニ於テ層片狀落屑ヲ明カニ認メ得タリ。

又本流行ニ於テ異常型ト思ハレシモノ中ニ無熱性猩紅熱トシテ取り扱ヒ得ベキモノ1例、又無疹性トシテ全紅過ニ互リテ遂ニソノ發疹ヲ認メザリシモノ3例アリ。而シテ之等ハカク同時ニ他ニ定型の患者ノ發生ヲ見タルノミナラズ、後ニ定型の落屑ヲ認メ得タルヨリ猩紅熱異常型患者ナルコトハ明カニ推斷セラルルモノナリ。

尙ホ又本流行ニ於テハ重症猩紅熱特ニ出血性等ノモノヲ見ザリキ。

次ニ本病ノ合併症ノ種類輕重等ハ總ベテ各流行及ビ各個人ノ特性ニ關スルモノナランモ、主ナルモノハ腎臟炎又耳炎等ニシテソノ頻度等ニ就キテモ成書ニアゲラルルガ如シ。

本流行ニ於テモ一過性ノ熱性蛋白尿トシテ發現セルモノ2例アリ。又所謂絲毯體性腎炎ト見做スベキモノ1例アリ、即チ臨牀上急性腎臟炎ノ症狀トシテ尿量減少シ浮腫顔面、次デ全身ニ現レ尿中ニ多量ノ蛋白ヲ見、Esbach氏蛋白計量計ニヨリ1.5%、沈渣中ニ赤白血球殊ニ赤血球多數、又硝子樣及ビ顆粒狀圓柱、腎上皮細胞等ヲ認メ得タリ。幸ニ漸次治癒ニ赴キタリ。尙ホ又他ニソノ輕度ナルモノ1例アリタリ。

耳炎ニ就キテハ僅6例ニ於テ而モ總ベテ左側ニ於テノミ鼓膜ノ充血又ハ混濁ヲ證明シタルニ過ギザリキ(小西氏檢査所見)ソノ他多發性關節炎トシテ1例ニ於テ初メニ左、後ニ右側膝關節炎及ビ左肘關節炎ヲ見、經過遷延セルアリ。又1例ニ於テク氣管支加答兒、加答兒性肺炎ノ證狀ヲ認メタリ。尙ホ1例ニ於テ口腔左頰部ニ拇指頭大ノ潰瘍ヲ認メソノ部ヨリ溶血性連鎖狀球菌ヲ證明シタリ。蓋シ腸「チフス」症ニ於ケルソレヨリモ尙ホ稀有ナルモノナランカ。

(2) 血液所見

本病ニ於テ血液像ニ就テハ古來 Naegeli, Heubner, Roth, Hirschfeld, 杉田, Georgescu, Erben, Kotschetkoff, Dick, Benneck, Reckzeh, Van den Bergh, Van Emden, Schemensky, Port, 秋山, Stahl, 得田, Tschistowitsch, Türck氏等ノ研究アリテ一般ニ赤血球、血色素ニハ著變ナク、又白血球ハ多クソノ病極期ニ於テ著明ニ増加シ、而モ初期ニハ中性多形核白血球、末期ニハ反之淋巴球ノ増加ヲ呈スル等多クノ他ノ傳染病ノソレニ類スルモ唯本病ニ特異ナルハソノ高熱時期ニ於テ比較的ニモ又絶對的ニモ著明ニ「エオジン」嗜好細胞ノ増加現出ヲ見ルニアリト信ゼラル。而シテ既述ノ如ク本症ノ血液像檢査ハ種々ノ意味ニ於テ肝要ニシテ又實ニ之ニ關

スル文献ハ前述ノ如ク枚學ニ違アラズ。然レドモ之等文献中血液成分ノ血小板ニ關シテハ3—4ノ報告アレドモ未ダ盡シタリト言フヲ得ズ。依ツテ余等ハ血小板數ノ消長ヲ主ナル目標トシテ検査セル本流行時血液像所見ヲ次ニ列舉セン。

因ニ本流行ニ於テハ前記ノ如ク殆ド同時ニ發病セルモノナルヲ以テ便宜上第1回第10病日、第2回第17病日、第3回第24病日ノ3回ニ互リテ空腹時耳朶ヨリ採血検査セリ。血球數算定ハThoma-Zeiss氏血球計算器ニヨリ血色素ハSahli氏、血小板計測ハFonio氏法、白血球種類ハGiemsa氏染色標本ニヨレリ。

第 1 例 中 ○ 喜 ○ 16 年

病日	血小板數(万)	赤血球數(万)	血色素量(%)	血色素係數	白血球數	白血球各種百分率				
						中性節狀核(%)	中性桿狀核(%)	淋巴球(%)	大單核移行型(%)	「エオジン」嗜好型(%)
I	38.4	477	85	0.90	9000	66	1	30	0	3
II	35.6	482	86	0.89	10200	44	3	36	5	7
III	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第 2 例 芳 ○ 保 ○ 19 年

I	40.4	485	87	0.90	15600	41	15	31	2	11
II	37.6	476	90	0.95	8000	58	3.5	31.5	1	6
III	26.8	403	90	1.12	7200	63	9	23	2	3

第 3 例 藤 ○ 勳 17 年

I	49.7	474	65	0.69	13600	61	6.5	31	0	1.5
II	40.3	458	62	0.68	8800	42	6	35	4	13
III	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第 4 例 西 ○ 英 ○ 18 年

I	36.0	467	70	0.83	9400	49	13	30	3	5
II	21.0	467	72	0.77	9600	70	4	24.5	1.5	1
III	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第 5 例 吉 ○ 一 ○ 18 年

病 日	血 小 板 數(万)	赤 血 球 數(万)	血 色 素 量(%)	血 色 素 係 數	白 血 球 數	白 血 球 各 種 百 分 率				
						中 性 節 狀 核 (%)	中 性 桿 狀 核 (%)	淋 巴 球 (%)	大 單 核 移 行 型 (%)	「 エ オ ジ ン 」 嗜 好 型 (%)
I	52.2	411	78	0.96	9000	74	2	21	0	9
II	31.6	392	75	0.95	9000	40	3	44	2	11
III	20.7	392	74	0.94	8000	48	5.5	40.5	2.5	3.5

第 6 例 中 ○ 貢 18 年

I	36.4	486	71	0.72	8200	62	4	30	2	2
II	52.0	467	80	0.85	10800	59.5	4	22.5	4	10
III	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第 7 例 難 ○ 栖 ○ 18 年

I	42.0	404	75	0.93	9800	47	14	25	2	12
II	22.9	403	80	1.0	7600	56	7.5	31.5	2	4
III	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第 8 例 田 ○ 勇 17 年

I	55.7	541	80	0.74	12800	69	8	22	0.5	0.5
II	38.6	496	80	0.81	10100	52	9	29	4	6
III	33.8	497	82	0.83	8600	69	10	17	2	2

第 9 例 岡 ○ 孝 ○ 18 年

I	33.9	464	72	0.78	11000	58	23	11	2	6
II	23.0	471	74	0.78	9000	54	9	14	6	17
III	20.6	490	78	0.79	8000	52.5	14	29.5	0.5	8.5

第 10 例 田 ○ 憲 ○ 19 年

I	33.6	486	75	0.77	8300	54	20	22	0	4
II	34.4	405	80	0.98	14000	45	8	41	1	5
III	36.9	473	77	0.81	8600	62	12	21	5	5

第 11 例 白 ○ 幸 ○ 18 年

病 日	血 小 板 數(万)	赤 血 球 數(万)	血 色 素 量(%)	血 色 素 係 數	白 血 球 數	白 血 球 各 種 百 分 率				
						中 性 節 狀 核 (%)	中 性 桿 狀 核 (%)	淋 巴 球 (%)	大 單 核 移 行 型 (%)	「 エ オ ジ ン 」 嗜 好 型 (%)
I	39.1	387	80	1.03	7800	53	10	31	2	4
II	36.0	369	75	1.01	12800	41	6	31	6	16
III	14.0	401	80	0.99	7200	55	7	31.5	0	6.5

第 12 例 尾 ○ 修 17 年

I	28.6	392	65	0.81	13000	60	11	25	0	4
II	38.7	387	68	0.89	9600	67.5	17	12	1.5	1.5
III	13.2	402	70	0.89	6200	50.5	11	33	0.5	5

第 13 例 森 ○ 貞 ○ 20 年

I	39.2	366	78	1.08	6800	65.5	4	27	0	3.5
II	29.2	365	82	1.13	9800	43	7	45	1	6
III	21.0	390	80	1.02	7000	55.5	5.5	27	5	6

第 14 例 山 ○ 盈 ○ 18 年

I	58.1	497	75	0.76	12200	75	10	12	2	1
II	47.9	470	73	0.77	8600	58	4	38	2	3
III	18.4	468	78	0.84	7200	40.5	8.5	35	1.5	9.5

第 15 例 兒 ○ 富 ○ 郎 17 年

I	42.5	463	70	0.76	11500	45	12	32	0	12
II	38.6	473	80	0.85	12800	60	8.5	26	1.5	4
III	25.5	501	82	0.82	6200	70	12.5	16	1.5	1

第 16 例 佐 ○ 多 ○ 17 年

I	34.4	441	75	0.85	13400	45	14	27	0	14
II	18.1	435	70	0.81	8400	40	10	26	4	20
III	17.1	448	75	0.85	6600	50	7	29	3	11

第 17 例

藤 ○ 常 ○

16 年

病 日	血 小 板 數(万)	赤 血 球 數(万)	血 色 素 量(%)	血 色 素 係 數	白 血 球 數	白 血 球 各 種 百 分 率				
						中 性 節 狀 核 (%)	中 性 桿 狀 核 (%)	淋 巴 球 (%)	大 單 核 移 行 型 (%)	「 エ オ ジ ン 」 嗜 好 型 (%)
I	34.5	494	78	0.79	12400	63	4.5	29.5	0.5	2.5
II	39.5	472	75	0.79	17200	54.5	14	27	0.5	4
III	18.3	471	70	0.74	8200	54.5	7.5	27	2	9

第 18 例

奥 ○ 清 ○

20 年

I	35.6	436	80	0.88	6400	43	13	37	3	4
II	37.6	470	80	0.85	6600	54.5	12	26	2.5	5
III	33.5	449	74	0.84	7000	44	11	37	6	2

今前記本流行ニ於ケル血液像ヲ總括スレバ次ノ如シ.

1. 本流行ニ於テハ比較的輕症ナリシタメカ著シキ赤血球, 血色素ノ減少ヲ見ズ. 又血色素係數ハ病狀ト關係ナリ常ニ 0.85 内外ナリ.

2. 血小板ハ本流行ニ於テ程度ノ差コソアレ全例ニ於テ有熱時, 殊ニ初期ニトノ増加ヲ認メ, 漸次經過ト共ニ正常圈内ニ復スルモノノ如ク, 而シテ解熱時ノ増加ヲ見ザリシモノ 13 例, 解熱時ニ反動的増加ヲ示セルモノ 3 例ナリキ. 而シテソノ最多數例ニ於テ血小板ノ消長ハ白血球ノ増減ニ平行セルコトヲ知レリ.

3. 白血球總數ハ本病初期ヨリ概シテ著明ニ増加ノ勢ヲ示シ, 可ナリソノ値ヲ持續シ漸ク恢復期ノ終リニ至リテ, 初メテ舊ニ復スルノ感ヲ呈セリ. 而シテ各白血球種類ニ就キテ見ルニ先ヅ中性多形核白血球ハ本流行ニ於テハ比較的輕症ノモノ多カリシタメカ著シキ増加ヲ示サザリキ. 然レドモ初期ニ桿狀核細胞ノ出現ハ特ニ著シカリキ. 淋巴球ノ態度ハ概シテ中性多形核白血球ノソレト反對セリ. 「モノチーテン」ハ本流行ニ於テハ非常ノ減少ヲ示シ殊ニソノ初期ニ於テ甚ダシカリキ. 而モノノ恢復期ニ入りテモノノ増加ハ著明ナラザリキ. 「エオジン」嗜好細胞ノ増加ハ一般的ニハ本流行ニ於テ左程顯著ナラザリシ. 且又糞中ノ寄生蟲卵ノ有無ノ觀察ナキハ遺憾ナレドモ各箇例ニ於テハ相當ノ増加ヲ見, 明カニ他ノ急性傳染病ニ見ザルモノタルヲ思ハシメタリ. 尙ホ他ニ病的成分ノ出現ヲ認メタルコトナシ.

要之ニ本流行ニ於ケル血液像ハ臨牀的一般所見ノ輕症ナルモノニ相當シタルモノニシテ尙ホ血小板ノ甚ダシキ消長ハ興味深キモノノ意義ニ就テハ今後ノ研究ニヨリ外ナシ.

(3) 總 括

余等ハ本文ニ於テ昭和3年2月中縣立高松農學校寄宿舎ニ於テ觀察スルヲ得タル18名ノ猩紅熱患者ニ關スル一般の臨牀症狀次ニソノ血液所見殊ニ血小板ガ病初期ニ於テ白血球ト同様増加シ、後漸次經過ト共ニ減少、正常圏内ニ復スルモノナルベキヲ述ベタリ。

稿ヲ終ルニ臨ミ御校閱ヲ賜ハリタル恩師柿沼教授ニ滿腔ノ謝意ヲ表ス。(3. 7. 20. 受稿)

主 要 文 獻

- 1) O. Nägeli, Blutkrankheiten u. Blutdiagnostik. 2) Mohl u. Stähelin, Handbuch d. Innere Medizin. 3) Rolly, Zentralblatt. f. Bakteriolog. Parasitenkrank. u. Infektionskrank. Abt. I. Orig. 1911. 4) S. Levi, Beit. 2. klin. d. Infektion. u. Immunitätsforsch. Bd. 2. Heft. 2. 5) Doerner, Deutsch. med. Wochensh. Nr. 20, S. 734. 6) Rominger, München med. W. Nr. 19, S. 437. 7) Benda, Arch. f. Kinderheilkunde. Bd. 65, Heft. 3. 8) Kretschmer, Jahrb. f. Kinderheilkunde. Bd. 78, S. 286. 9) Schick, Jahrb. f. Kinderheilkunde. 1907. Bd. 68. 10) Franz, Bärdschi u. Richard Glauber, Med. Klinik. Nr. 41, 1927. 11) Van. den. Bergh, Arch. f. Kinderheilkunde. Bd. 25, 1898. 12) Erben, Zeitsch. f. Heilkunde. 25, 1904. 13) Georgescu, Inaug. Diss. Bukarest. 1911. 14) Kotschetkoff, Ziegl. Zentralbl. 1892. Nr. 11. 15) Roth, Med. Klinik. 1910. 16) Schemensky, Zentralbl. f. inn. Med. 1918. Nr. 26. 17) Türk, Monatsch. f. Kinderheilkunde. 15, 1918. 18) Ischistowitsch, Ref. in Zentralbl. f. allg. Pathol. u. pathol. Anatomie. 1907. 18. 19) Helber, Deutsch. Arch. f. klin. Med. 1094. 81. 20) Port. u. Akiyama, Deutsch. Arch. f. klin. Med. 1912. 106. 21) Stahl, Zeitsch. f. klin. Med. 1923. 96. 22) 佐藤清, 實驗血液病學. 23) 杉田卯吉, 南滿醫學會雜誌. 第5卷, 第4號. 24) 得田, 東北醫學會雜誌, 第8卷.

